

「医療の現場も創意工夫が必要」

100年続く医療法人めざす偕行会グループ

名古屋共立病院（名古屋市中川区）をはじめ多くの病院、透析施設、介護施設などを擁する医療法人偕行会グループ。法人となってから40周年にあたる昨年、山田哲也氏がグループの中核法人である医療法人偕行会の理事長に就任した。早くから海外に目を向け、コロナ禍にあっても海外戦略を推進、さらなる発展を目指している。山田理事長に今後の戦略—特に海外戦略や自由診療の拡大について話を伺った。

（同席：阿部一也理事・国際医療事業部長。聞き手は塚本隆・本誌編集長）

塚本 理事長就任1年の所感をお話してください。

山田哲也理事長 川原弘久前理事長（現：偕行会グループ会長）は創業者でもあり、ご自身の強力なリーダーシップでグループを築き上げました。私には同じことはできませんので、理事長就任後は我々偕行会グループの理念^{（注1）}と医療方針^{（注2）}に基づいた民主的な運営をしていくことを掲げました。役員らと合議を重ね、様々な意見交換をしながら民主的運営に努めてきた1年間でした。

—グループの規模、現在の職員数を教えてください。

山田 偕行会グループの医療法人は6法人あり、病院は4施設、透析施設は18施設、老人保健施設が2施設、画像診断センターが2施設、訪問介護、居宅介護施設などは19施設を擁しています。グループ全体の職員数（非常勤も含む）は約2950名、このうち1900名ほどが偕行会の職員です。

—経営トップとして職員へ伝えていることをお聞かせください。

山田 私は就任後より、「理念と医療方針に

基づく民主的運営」を行うこと、中でも理念にある「医療従事者の働きがいのある法人運営をめざす」ことを常に発信してきました。医療従事者の働きがいのある法人運営が何故大切かという、働きがいをもって仕事をすることで職員の幸福感や充実感が高まり、持続的なキャリアや医療技術の向上にも貢献します。それらが患者様により良い医療の提供につながるからです。また、医療従事者は自己犠牲をしがちですが、まずは自分が一番幸せにならないといけない、ということも職員には伝えていきます。

—経営への取り組みについてはどうですか。

山田 当法人グループの透析患者様は順調に増加しており、直近の数字では3560名、全国で3番目、愛知県1位の規模です。

昨今、医療業界も水道光熱費の高騰、製造・流通コスト高による医薬品や医療材料の値上がりに直面しています。診療報酬や介護報酬は公定価格となっているため値上がり分を転嫁することができず経営環境は厳しい状況です。そのような中であっても2022年度はなんとか黒字を確保できました。しかし日本は人口減少や国家財政緊縮による社会保障費の抑制、労働力

（注1）偕行会グループの理念は①総合的な医療をめざす②真に患者のための医療をめざす③医療従事者の働きがいのある法人運営をめざす。

（注2）医療方針は総合的な医療の展開、豊かな財政基盤の確立、職員は常に創造主義でなければならない、など8項目。